

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（小学校用）

都道府県名	熊本県
-------	-----

I 学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	阿蘇郡一の宮町立宮地小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	3	15	25
児童数	59	61	63	70	61	61	6	381	

II 研究の概要

1. 研究主題

わかる授業・楽しい授業の創造  
 ～基礎・基本の定着をめざした、個に応じた指導方法の工夫を通して  
 （算数科を中心に）～

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

- ・ 1. 2年・算数
- ・ 3. 4年・算数
- ・ 5. 6年・算数

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	(平成15年度からの新規校のため)
--------	-------------------

平成15年度	○ テーマ わかる授業・楽しい授業の創造 ～基礎・基本の定着をめざした、個に応じた指導方法の工夫を通して （算数科を中心に）～
	○ 研究の見通し
	一人ひとりのこどもに、わかる楽しさ、学ぶ楽しさを味わわせる授業（「わかる授業・楽しい授業」）を展開すれば、学ぶ意欲が高まり、学力が向上する。
	《仮説1》 児童の実態をとらえ、定着を図るべき内容（基礎・基本）を明確にし、教材を工夫し、きめ細かな指導をすれば、「わかる授業・楽しい授業」が展開できる
	《仮説2》 個に応じた指導方法を工夫し、きめ細かな指導をすれば、「わかる授業・楽しい授業」が展開できる。
《仮説3》 評価の方法を工夫し、個に応じた指導に生かし、きめ細かな指導をすれば、「わかる授業・楽しい授業」が展開できる。	
○ 研究の内容・方法	

- 1 教材の工夫・開発
  - 思考の過程が見える教材の開発
  - 視覚でとらえさせるための教材の工夫
  - 児童の思考に沿った具体物、半具体物の積極的活用
- 2 指導方法の工夫
  - 児童の主體的なコース選択
  - 学習内容に応じた適切な指導形態（一斉指導、TTによる指導、少人数指導－習熟度別、課題別、均等分割など）のあり方
- 3 評価の工夫
  - 1時間ごとの評価テストによる理解度チェック
  - 補助簿の利用
  - 自己評価カード（振り返りカード）の作成

平成16年度

- テーマ  
わかる授業・楽しい授業の創造  
～基礎・基本の定着をめざした、個に応じた指導方法の工夫を通して（算数科を中心に）～
- 研究の見通し
 

一人ひとりのこどもに、わかる楽しさ、学ぶ楽しさを味わわせる授業（「わかる授業・楽しい授業」）を展開すれば、学ぶ意欲が高まり、学力が向上する。

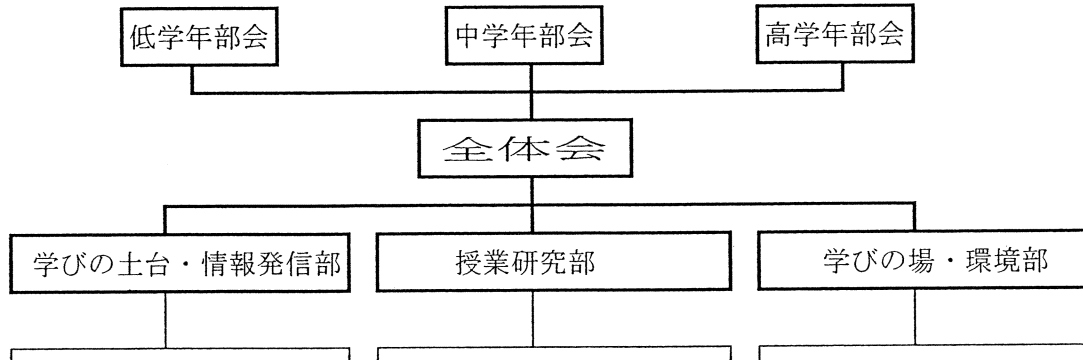
《仮説1》 児童の実態をとらえ、定着を図るべき内容（基礎・基本）を明確にし、教材を工夫し、きめ細かな指導をすれば、「わかる授業・楽しい授業」が展開できる

《仮説2》 個に応じた指導方法を工夫し、きめ細かな指導をすれば、「わかる授業・楽しい授業」が展開できる。

《仮説3》 評価の方法を工夫し、個に応じた指導に生かし、きめ細かな指導をすれば、「わかる授業・楽しい授業」が展開できる。
- 研究の内容・方法
  - 1 授業研究部
    - ・ 学びの土台の育成
    - ・ 基本的生活習慣の定着
  - 2 学びの土台部
    - ・ 教材の工夫・開発
    - ・ 指導方法の工夫
    - ・ 評価の工夫
  - 3 環境部
    - ・ 日課表の工夫
    - ・ 学びの場の充実
    - ・ 学習環境の整備

\* 平成15年度からの新規校については、平成15、16年度の計画について記入すること。

(3) 研究推進体制



<ul style="list-style-type: none"> <li>○学びの土台の育成</li> <li>○基本的な生活習慣の育成 <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭との連携・共有化の工夫や啓発のありかた</li> <li>・アンケートの分析と取り組みの方向付け</li> </ul> </li> <li>○情報発信 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページ等情報発信の取り組み</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業研究の進め方 <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業研の計画</li> <li>・指導案形式</li> <li>・授業研究会の進め方</li> </ul> </li> <li>○授業研究 <ul style="list-style-type: none"> <li>・教材研究・開発</li> <li>・指導方法の工夫</li> <li>・評価の工夫</li> <li>・指導過程の研究</li> </ul> </li> <li>○仮説の検証</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学びの場の充実 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学力充実の時間、読書タイムの効果的実践</li> </ul> </li> <li>○学習環境設備 <ul style="list-style-type: none"> <li>・掲示の工夫</li> <li>・共通の掲示物</li> <li>・児童の学習意欲を高める環境づくり</li> </ul> </li> <li>○日課表の工夫</li> </ul>
--	---	--

### Ⅲ 平成15年度の研究成果及び今後の課題

#### 1. 研究成果

<ul style="list-style-type: none"> <li>① 教材研究・開発 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 具体的な操作をたくさん取り入れたり、量感覚や数の概念を養うような活動を取り入れたりすることによって、児童は楽しみながら学習に取り組み、理解が深まった。また、指導側もひとりひとりの思考が見え、個に応じた指導がしやすかった。</li> </ul> </li> <li>② 指導方法の工夫 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童が見通しを持って学習に取り組むことができるようになった。</li> <li>○ 個に応じた指導をさらに心がけることによって、学習内容が難しくなる中でも意欲の喚起につながっている。</li> <li>○ TT指導や少人数指導を取り入れたことで、「算数が好き」という児童が増え、学習に対する意欲が向上した。好きになった理由としては、「わかるようになった。」「自分のペースで静かに学習できる。」「意見が言いやすい」などであり、効果的であったことがわかる。</li> </ul> </li> <li>③ 評価の工夫 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1時間ごとのねらいに沿った評価テストにより1単位時間ごとの児童の習熟度合いや基礎基本の定着度、どこで行き詰まりやすいかなどの傾向がわかり、次時の指導にしっかり生かすことができた。児童にも評価テストが定着しており、すすんで取り組んでいる。</li> </ul> </li> <li>④ その他 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 朝の読書タイムを設定したことで児童が朝から集中した雰囲気ですすんで迎えられるようになってきている。</li> </ul> </li> </ul>
---

#### 2. 今後の課題

<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 落ち着いた学習に取り組めない児童（LD、ADHD傾向の児童）の指導を考えた個に応じた指導法の工夫改善にも努めていきたい。</li> <li>○ 少人数・TTと担任との打ち合わせの時間を、業間に設定した。しかし、子どもの個別指導の時間や事務などで、なかなか時間がとれず、有名無実であった。担当者同士の打ち合わせの時間が十分にとれなかったことから、まだ少人数指導のよい面を十分活かし切れなかったところもあるのではないと思われる。この打ち合わせの時間をどのように確保していくかが、今後の課題である。</li> <li>○ 「興味・関心」や「思考・判断」の評価項目については、座席表を利用したり、ノートをチェックしたりして評価したが、さらに研究をしていかなければならない。</li> <li>○ 子どもが書き込むことができるような主体的に関わることのできる掲示を工夫していきたい。</li> </ul>
--

### Ⅳ 学力等把握のための学校としての取組

<ul style="list-style-type: none"> <li>* ゆうチャレンジ <ul style="list-style-type: none"> <li>目的：新しい学力観の評価基準に照らした客観的な学力診断テストを実施し、これまでの教育実践の反省、今後の指導方法の工夫改善に活かし、更に学校評価の資料にする。</li> <li>実施学年：3～6年</li> </ul> </li> <li>* 学力テスト <ul style="list-style-type: none"> <li>目的：1年間の学力の定着力を調査し、今後の指導に活かす。</li> </ul> </li> </ul>
---

実施学年：全学年

V フロンティアスクールとしての研究成果の普及

\* 平成16年度公開研究発表会予定（日時：10月下旬、場所：本校、会の目的：研究成果普及）

\* フロンティアティーチャーとして他校の研修等の参加を要請された場合は研究成果を伝えていきたい。

◇ 次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】  15年度からの新規校  14年度からの継続校

【学校規模】  6学級以下  7～12学級  
 13～18学級  19～24学級  
 25学級以上

【指導体制】  少人数指導  T・Tによる指導  
 一部教科担任制  その他

【研究教科】  国語  社会  算数  理科  
 生活  音楽  図画工作  家庭  
 体育  その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】  有  無